

新たな飛躍のために

図書館長 野上修市

本学図書館は、教育・研究機関である明治大学の主要な機関として、「利用者サービスの向上」をモットーに、学生、教職員、校友、その他関係者に対し、資料提供を中心としたサービスを提供してきております。

本年次報告書には、今回で5回目の発行になりますが、本学図書館で展開した諸活動の軌跡が示されています。図書館の活動を年度ごとに客観的に、かつ詳細に示すものとして、本報告書があります。したがって図書館関係者、本学関係者に図書館を客観的に見ていただき、その評価やご意見を聞かせていただくことによって、本年度以降の図書館活動を見直す材料としたいと考えています。また、図書館関係諸氏においては、本報告書を改めて精読し、図書館のあるべき姿を追求しつつ、着実な発展の歩みを続けて行くことを希望します。

大学をとり巻く課題はますますきびしくなり、また多様化・複雑化しているのが現状です。図書館の置かれた状況も同様ですが、明治大学の発展にとって図書館の果たすべき役割はますます大きくなっています。

このような状況を踏まえ、図書館では、大学理事会の理解を得て2003年度末の図書委員会において図書費配分の改革を行いました。また、法科大学院をはじめとして、2004年度新規開設した新研究科、新学部等の教育・研究に支障がないように、図書館としては精一杯環境整備に取り組んでおります。

本年度特筆すべきこととして、かねてより本学人文科学研究所創立40周年記念事業として蘆田文庫編纂委員会により編纂が進められていた「蘆田文庫目録 古地図編」の完成があります。この事業には、スタート時より多くの図書館職員が編纂委員となり、人文科学研究所員と共同して目録の編纂を行ってきました。この目録の刊行により図書館所蔵の古地図コレクションの存在を世に知らしめたことの意義は大きいものがあると思います。

今後の課題としては、既に検討を開始しているところですが、新和泉図書館の建設が、図書館にとって焦眉の急であります。学内関係機関と連携して、課題実現に向けて努力を傾注する所存です。また更なる利用者サービス向上のために、学生に対しアンケートによる「図書館評価」の実施を予定しています。

2005年は、図書館開設120周年にあたりますが、これを機会に、これまでの歴史をふり振り返りながら、更に大きな飛躍を期しているところであります。

図書館の充実は、明治大学の教育・研究の発展に直結します。学内関係者のご理解を得つつ、図書館を大きく前進させたいと考えております。

本報告書を通じ、図書館の諸活動に対する皆様のご理解がさらに深まることを期待しております。また、本報告書について皆様のご示唆、ご意見をいただければ幸いです。